

# カンキツ新品種候補 ‘和果試交雑第1号（仮称）’

和歌山県果樹試験場 栽培部 主査研究員 田嶋 皓

## 1. はじめに

近年の異常気象等の影響により、カンキツ類は果皮障害、隔年結果などが多発し、高品質安定生産が難しくなっています。また、他県において優良なカンキツ品種が開発される中、本県においても品質に優れ栽培しやすい県オリジナル品種の育成が望まれています。そこで、果樹試験場では交雑育種による新品種育成に取り組み、有望と考えられる‘和果試交雑第1号’を選抜し、2018年12月に登録出願を行いましたので報告します。

## 2. 育成の経過

2002年5月に‘清見’に‘中野3号ポンカン’を交配し、交雑個体を果樹試験場内園地に接ぎ木しました。2008年から果実品質調査を開始し、73個体の中から一次選抜を行い、その後高接ぎにより二代目を育成しました。果実品質や栽培性などから有望と判断し、3月に出荷可能な中晩柑系統として最終選抜しました。

## 3. 特徴

‘和果試交雑第1号’の成熟期は3月であり、果実重は180g程度です。果皮は鮮橙色でなめらかです。剥皮性はよく、手が果汁で汚れないのが特徴です。また、浮皮などの果皮障害がほとんど発生せず外観は良好です（図1、表1）。果実は良食味で、さじょうが大きくさくさくした食感が特徴です（図2）。

樹勢が強くとくに早期に樹冠拡大します。新梢にトゲの発生はみられますが、結実とともに短くなります。また、かいよう病の被害は比較的少なく、栽培は容易と考えられます。

## 4. 調査結果

特性調査の結果、‘和果試交雑第1号’の果皮は‘清見’や‘中野3号ポンカン’と比較して薄く、果肉割合は高いです。また、他家受粉すると種子は入りやすくなります（表1）。糖度は‘清見’や‘はるみ’より高く推移し、成熟期である3月には13程度となります（図3）。クエン酸含有率は1月以降比較的高く推移しますが、3月には1～1.3%となります（図3）。

また、2017～18年の試食検討会の際に関係者によるアンケート調査を行いました。普及の可能性について、4（高い）、3（やや高い）、2（やや低い）、1（低い）の4段階で評価いただいたところ、41～73%の割合で3以上と評価されました（図4）。食味の面では、糖度が高く食感がさくさくしているのでおいしいという意見が複数ありました。

## 5. まとめ

‘和果試交雑第1号’は食味がよく、栽培が比較的容易であると考えられるため、品種登録された後には県内での普及が期待されます。ただし、収穫期が比較的遅いため、主に紀南から有田地域にかけての凍害を受けにくい温暖な地域において品種の特長が発揮されると考えられます。



図1 '和果試交雑第1号' の果実



和果試交雑第1号 清見 中野3号ポンカン

図2 '和果試交雑第1号' および対照品種の果実断面

表1 '和果試交雑第1号' および対照品種の果実特性

品種・系統名	横径 (mm)	果形指数	果実重 (g)	果皮色	果皮厚 (mm)	果肉割合 (%)	剥皮の難易	種子数
和果試交雑第1号(原木)	76.8	123	197	鮮橙	2.3	84.5	やや易	0.5
和果試交雑第1号(二代目)	71.8	122	162	鮮橙	2.0	85.2	やや易	3.8
清見	80.5	113	224	鮮黄橙	4.8	71.6	やや難	0.5
中野3号ポンカン	77.8	113	186	鮮橙	3.8	68.6	易	9.5
はるみ	87.0	124	249	鮮橙	3.2	75.6	易	3.2

2017年2月6日調査

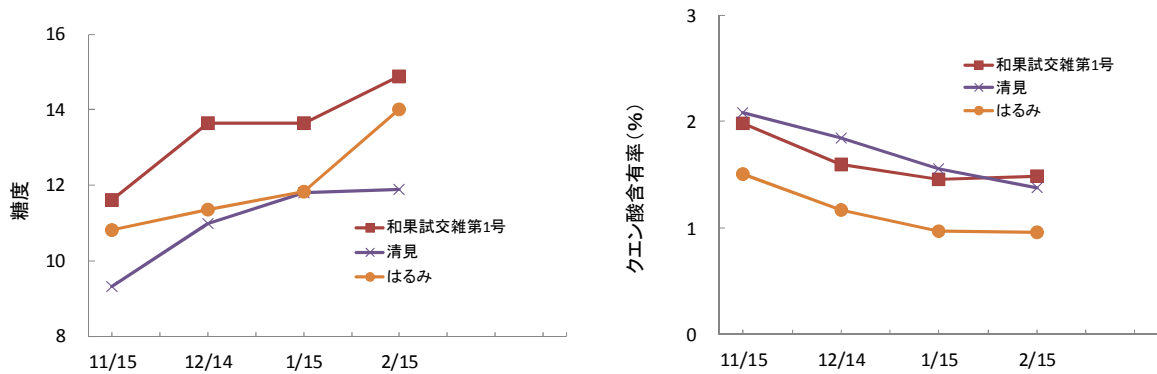


図3 '和果試交雑第1号' および対照品種の果実品質

- ・調査年：2018～2019年
- ・いずれも高接ぎ樹、結実2年目、n=3

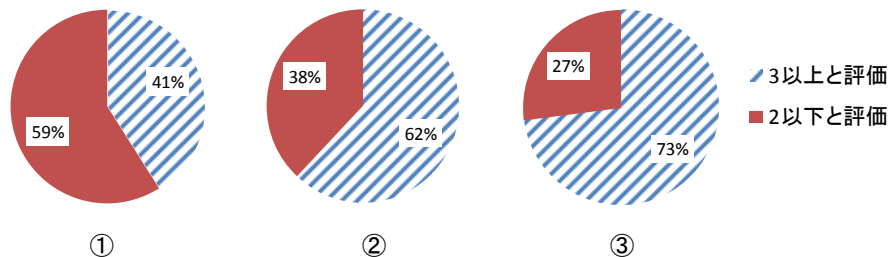


図4 '和果試交雑第1号' の普及性に関するアンケート結果

- ・①JA紀南生産者、営農指導員 (n=29、2017年3月17日)
- ・②和歌山県かんきつ生産振興協議会会員 (n=13、2017年3月24日)
- ・③果樹新品種研究同志会役員、支部長 (n=14、2018年3月26日)
- ・普及の可能性について、4(高い)、3(やや高い)、2(やや低い)、1(低い)の4段階で評価